

様式 4

平成 26 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 26 年 9 月 25 日

学 長 殿

所属部局・職名

うつくしまふくしま未来支援センター副センター長

申 請 者 名 小山 良太

| | |
|------------------------|--|
| 助成事業の区分 (該当するものに○印) | 研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・ <u>その他の特別事業</u>) |
| 事業名 | 「原子力災害からの復興に向けた協同の力」 |
| 事業実施期間 | 平成 26 年 9 月 6 日 ~ 平成 26 年 9 月 6 日 |
| 成果の概要 | <p>本事業は、全国大学生生活協同組合連合会教職委員会と当センター（食・農復興支援担当）の共同主催によるシンポジウムである。原子力災害後の福島で、協同組合や学生・住民によって展開されてきた復興に向けての特徴的な取り組みを、実践者の報告によって学び、交流することを目的とした。</p> <p>具体的には、下記概要のもと、県内の生活協同組合（コープふくしま、郡山医療生協など）および福島大学生（FURE 学生サポーター員）からの実践報告の後、会場発言を交えて総合討論を行った。</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none">日時：平成 26 年 9 月 6 日（土）13:00~16:00会場：コラッセふくしま多目的ホール主催：全国大学生生活協同組合連合会教職員委員会 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 一般社団法人国立大学協会協力：福島大学ふくしま未来食・農教育プログラム <p>参加者は県内外から約 290 名にのぼり、会場発言では法学、教育学、経済学などの研究者や農業協同組合関係者による論点の提起があり活発な討議が行われた。福島大学で企画立案した立場から見ても地域復興に必要な新たな論点が浮かび上がった。また、福島県内の生活や産業・地域の実態について学びとったことを県外の参加者が共有して持ち帰り、各地での活動に役立てることで、それぞれの地域で福島復興支援や将来の災害対応についての協議が促進されることが期待される。</p> |